

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	やわらのココロ放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 18日		～ 2026年 3月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2026年 2月 18日		～ 2026年 3月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	相手を敬い、柔軟に受け止める「共感的支援」の徹底	「常に複数人いる体制ありがたい」と評される手厚い人員配置を活かし、お子さん一人ひとりの感情や特性を否定せず、まずは「しなやかに受け止める」姿勢を職員一同が共有しています。この安心感が、通所への高い意欲に繋がっています。	「やわらのココロ(穏やかでしなやかな心)」を育む具体的な声かけや対応事例を事業所内で共有し、どの職員が対応しても一貫した「温かい受容的支援」が受けられる体制を強化します。
2	身体をのびのびと動かし、自己調整力を育む環境	「走り回れるスペースが貴重」との声がある通り、広い空間でのびのびと身体を動かす「動」の活動を大切にしています。同時に、机の配置などを工夫した「構造化された環境」を提供することで、お子さん自身が自分で気持ちを切り替え、落ち着いて過ごせる力を育てています。	広いスペースをさらに有効活用し、遊びの中でバランス感覚や体幹を意識できるプログラムを充実させます。楽しみながら自分の身体を上手にコントロールする感覚(自己調整力)の育成を促進します。
3	小さな成長を逃さない、家庭との緊密な連携	「こまめに連絡を頂ける」と評価いただいている通り、日々の活動の中で小さな変化や成長を丁寧に見守り、保護者様へ共有しています。共通理解を持つことで、ご家庭と事業所が同じ歩幅でお子さんの発達を支える体制を構築しています。	言葉での報告に加え、活動中の様子がより具体的に伝わるような工夫(おたよりや掲示物、SNS等の活用)をさらに進めます。成長の瞬間を共有することで、保護者様の安心感と「これからの楽しみ」という期待に応えます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部連携による社会性向上機会の創出	安全管理を優先し、事業所内での活動を主軸としていたため、外部機関とのスケジュール調整や共同プログラムの企画が不足していました。	近隣の児童館や地域コミュニティとの接点を持ち、社会性を育むための外部交流機会を年間計画に反映させ、子どもたちが多様な人と接する場を作ります。
2	支援指針(ガイドライン)の周知と理解促進	専門的な用語や指針の内容を、日々の支援や個別支援計画と結びつけて分かりやすく説明する機会が十分に持てていなかったことが要因です。	個別支援計画の作成・更新時の面談において、ガイドラインのどの項目に基づいた支援であるかを明示し、専門性の根拠を視覚的に分かりやすく提示します。
3	保護者支援・家族支援プログラムの具体化	運営開始から間もないこともあり、まずは子どもの直接支援の安定化を優先していたため、家族向けプログラムの定期的開催まで至りませんでした。	「始めたばかりでこれからの楽しみ」という保護者の期待に応えるべく、茶話会などの交流会や、外部講師を招いた勉強会を年度計画に組み込み、実施を定例化します。